

雨の中 勇壮に練り歩く

～水口曳山祭～



△境内に並ぶ5基の曳山

春の風物詩の一つ、水口曳山祭が4月19・20日に行われ、今年もまちに囃子が響き渡り、曳山が勇壮に巡行しました。

19日の宵宮祭では、各町の山倉(蔵)の曳山に飾り付けられた提灯が灯り、まち中から囃子が響き、幻想的な雰囲気を出しました。

20日の例大祭は、あいにくの雨模様となりましたが、5基の曳山が巡行。皆さんずぶぬれになりながらも、力強い掛け声と囃子の中、勇ましく巡行が行われました。

今年は、この時期まで桜が残り、桜吹雪も舞い散り、お祭り気分を盛り上げました。



△雨の中境内を走る曳山



△宵宮、水口神社境内で奏でられる囃子



△各町の山倉(蔵)から出る曳山

甲賀市の
文化財

43

水口藩加藤家文書の全貌が明らかに

水口藩主加藤家に伝えられた古文書群です。市教育委員会では、平成18年度から4年間をかけ、国庫補助事業による調査を行いました。

加藤家は、賤ヶ岳の七本槍の一人加藤嘉明を祖とし、明友のときに水口に入部、その後一時期を除き、明治維新に至るまで水口藩主を勤めた大名家です。

今回調査した古文書群は、もともと江戸水口藩邸にあって、明治以降も東京で管理されていたものが、関東大震災を期に水口町松栄の「お蔵」に収められたものと考えられます。長く人目に触れず埋もれていましたが、平成15年、管理者のご厚意により水口町(当時)に寄贈され、現在は市の所蔵となっています。

この古文書群の全貌を明らかにするため、藤井讓治京都大学大学院教授を中心とする調査会による調査が進められた結果、江戸期〜大正期にかけての1万3,983点にも及ぶ、質・量ともに豊かな古文書群であることが

問い合わせ

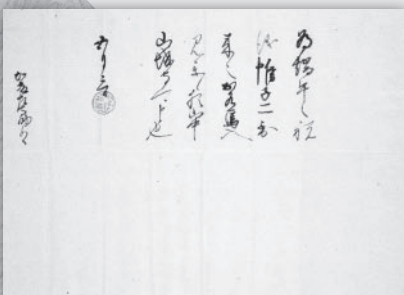
歴史文化財課 調査管理係

☎086-80026 ☎086-8216

明らかとなりました。

この中には、豊臣秀吉朱印状や、多くの御内書(徳川將軍家からの礼状等)、幕府老中奉書が残されており、大きな特色となっています。さらに、加藤家が勤めた大坂城守衛の記録、江戸藩邸の日記、江戸時代後期の村絵図、慶長12年(1607年)年水口宿に出された「伝馬朱印添状」など、不明な点が多かった水口藩の様子が分かる古文書が多数含まれています。また、明治以降の華族制度草創期やその後の活動・展開の有様が知れるものも豊富に残されています。

この調査の成果は『水口藩加藤家文書調査報告書』としてまとめられました。今後、地域の歴史を知る文化遺産として保護し活用していくことが重要です。



▲豊臣秀吉朱印状(端午祝儀)